

# パネルディスカッション

---

## 地域での IPE と IPW の実際

富山大学医学部 救急・災害医学講座<sup>1)</sup>、広島文化学園大学大学院看護学研究科<sup>2)</sup>、岡山大学<sup>3)</sup>、獨協医科大学越谷病院<sup>4)</sup>、郡山健康科学専門学校 介護福祉学科<sup>5)</sup>、医療法人社団翔洋会 総看護師長 在宅看護専門看護師<sup>6)</sup>

司会：奥寺敬<sup>1)</sup>、岩本 由美<sup>2)</sup>

パネリスト：万代康弘<sup>3)</sup>、浅香えみ子<sup>4)</sup>、山本満智子<sup>5)</sup>、山本悦子<sup>6)</sup>

昨今、医療現場や医療系の基礎および卒後教育の中で「多職種協働」による実践 (IPW: Inter-Professional Work) や教育 (IPE: Inter-Professional Education) が注目されている。

多くの病院が、褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム (NST)、感染対策チーム (ICT)、退院支援チームなど多職種がチームとなり患者の問題に対応していく活動を導入している。

卒前・卒後の教育でも多職種でのチーム医療を学ぶ機会が増えてきた。

本パネルディスカッションでは、職種の異なるパネリストたちの立場から地域における IPE と IPW の実際や、今後の課題について紹介してもらい、参加者全員によるディスカッションを行い、地域における地域での IPE と IPW について考えていく。